2023年度「実践予報技術講習会（4日コース）」のご案内

2023年度の「実践予報技術講習会(4日コース)」は、それぞれの季節で代表的な顕著現象をテーマとして、1年間で3つのテーマを取り上げます。

ひとつのテーマごとに1日目「週間天気予報演習」、2日目「天気予報演習」、3日目「演習のまとめ」に加えて、4日目に「演習のテーマに関わる防災」としてテーマに取り上げた現象に関連した防災についての講習を行います。

１．講習期日

【第１回　テーマ「梅雨期から盛夏期にかけての大雨」】

1日目	2023年5月20日(土)	13時30分 ～ 16時30分
2日目	2023年5月27日(土)	13時30分 ～ 16時30分
3日目	2023年6月10日(土)	13時30分 ～ 16時30分
4日目	2023年6月17日(土)	13時30分 ～ 16時30分

【第２回　テーマ「秋から冬にかけての低気圧に伴う荒天」】9～10月

【第３回　テーマ「春の低気圧に伴う荒天」】2～3月

第2回、3回の「実践予報技術講習会(4日コース)」については、開講の2ヵ月ほど前に、改めて当センターHPに掲載、案内致します。

２．講習対象者

この講習会は気象予報士の資格を有している方で気象に関する業務に従事している方のほか、気象に深い関心をお持ちの方、気象や気象防災に関わる啓発活動に関わる方など気象の解析・予報の技術や関連した防災について習得したいと考えておられる方を対象としています。

講習の内容は特に高い専門性を必要とするものではありませんので、気象に関わる業務に従事した経験がない方でも興味を持って受講していただけます。

【受講の条件】

本オンライン講習会は、オンラインミーティングツール「Zoom」システムを用いて行います。そのため、この「Zoom」システムを利用できることが必要です。また、実習及び質疑・応答の際に音声及び画像の共有ができることが必要です。

３．講習のテーマ

今回は『梅雨期から盛夏期』の災害につながるような顕著な現象を取り上げ、初めの2日間で過去の事例を用いた週間天気予報と天気予報の演習を行います。演習の結果として3日目に“まとめ”を、4日目に他の類似の事例等も紹介しながら、それらの顕著現象に伴う“防災”について考えます。演習を通じた現象の理解と防災までを4日間でまとめます。

４．講習目標

季節ごとに災害につながるような顕著現象について、週間天気予報のスケールでの資料を用いた現象の把握・理解と予測、次に明日、明後日の天気予報のスケールでも同様に、2 つの視点から演習を行います。天気図や解析図を用いて資料の解析、解釈、予報への翻訳の着眼点の整理などの作業を通じて現象を理解するとともに、実況から予測までの一連の予報作業について手順や考察のポイントなどの理解を深めます。

また、顕著現象に伴う災害の態様、防災のポイントについても考察し、テーマとする現象についての理解、予想から防災までを一連のものとして理解を深めます。

受講後は天気図や解析図などの資料を利用して自ら現象についての知見を広めるとともに、災害や防災に関わる知識を涵養することで防災力の向上を目指します。

５．講習の内容

第１回「梅雨期から盛夏期にかけての大雨」

《5 月 20 日、27 日、6 月 10 日、17 日》

第 1 回は梅雨期から盛夏期にかけて、日本付近でしばしば発生する大雨の事例を取り上げます。1 日目、2 日目で週間天気予報、天気予報それぞれのスケールで現象の特徴、大雨につながる予兆や発現の状況などについて各種の実況の天気図、解析図と数値予報の予測資料などを用いた演習を通じて現象を把握、理解します。3 日目には演習のまとめを行い、また他の類似事例なども示しながら現象への理解を深めます。4 日目は近年も相次ぐ大雨災害の状況を概観し、線状降水帯に関わる最新の予測技術、気象情報の現状なども加えながら大雨への防災対応について考えます。

６．講習の進め方

講習は特に予報に関する高度な知識や業務での経験は必要ありません。また、実習作業で用いる資料は気象庁や民間気象事業者のホームページなどでいつでも容易に入手できるものを使います。

各回とも 1 日目と 2 日目はそれぞれ週間天気予報、天気予報の資料を使った演習です。受講者の皆さんご自身で、天気図などの資料を用いてテーマに沿った現象に着目した解析、実況や予測のポイントなどを整理します。

演習は、天気図や解析図などに描かれた等高度線や渦度、鉛直流などの要素から現象を理解し、低気圧の発達など現象の変化をどのように解釈するのかなど基礎的な内容を中心に進めます。

天気図やその時に現れる現象などに関心や興味を持っている方にとっては、天気図を通じて現象をさらに深く理解するきっかけとなるものです。

3 日目のまとめは講師による実況資料の見方、ポイントの整理、様々な予測資料から見た現象の推移のポイントの整理などを通じて、受講者の皆さんの

演習結果と合わせて理解を深める機会とします。
4日目は演習やまとめを通じた現象の理解に加えて、現象に伴う主な災害を知るとともに、災害を防ぐための取り組みについて考えます。
なお、演習で使う資料については、事前〔1週間程度前〕に紙ベース及びファイルで送付しますので、できれば当日までに目を通して予習をしておいてください。質問については、各回講習会の終了後、まとめ等の資料を受講した皆さんにお送りした後、一定期間内に質問を受けます。頂いた質問にはできる限りお答えするよう努め、回答は受講された皆さんに提供します。なお、ご質問すべてにお答えすることができない場合もあることもご承知おきください。

７．講師

講師は、気象庁本庁において永らく予報現場の責任者として指導、管理に携わってこられた元気象庁予報課長の村中 明氏です。
現在、気象業務支援センター 特任講師
NPO 環境防災総合政策研究機構 理事
気象防災アドバイザー

退職後 これまでの講演・講師一覧
気象大学校、政策大学院大学、国際協力機構〔JICA〕、日本気象予報士会、日本防災士会、自治体〔県、市町村〕、企業・団体 等

気象防災〔タイムラインの構築、運用支援、河川の水防災 等〕に関わるアドバイザー業務
高知県、熊本県、長崎県、岡山県、広島県、大阪府、岐阜県などの市町村・住民組織

著作〔 共著 〕一覧
・『防災事典』 日本自然災害学会 監修 築地書館 2002年8月
・『気象予報士ハンドブック』 日本気象予報士会 オーム社 2008年11月
・『災害情報論入門』 田中淳、吉井博明 編集 弘文堂 2008年12月
・『災害情報学事典』 日本災害情報学会 編集 朝倉書店 2016年3月
・『水害読本』 命を守る水害読本編集委員会 毎日新聞出版 2017年7月
・『風水害と防災の事典』 風水害と防災の事典編集委員 丸善 2021年12月
等

８．教材

当日使用する演習資料、まとめの資料等をテキストとして配布します。

９．募集定員

30名（先着順）

１０．受講料（教材費を含む）

15,400円　(14,000円 ＋ 消費税)

１１．申込方法

「受講申込書」に必要事項をご記入の上、下記の申込先へ電子メールでお申し込みください。受講の申込みは先着順です。

メールより受講の受付け後、受講料の振込先をご連絡しますので、受講料を指定の銀行口座にお振り込みください。

また、請求書・受領書等を必要とされる場合は申込書備考欄に名義と必要書類をお知らせください。

なお、一旦納入された受講料の返金には応じかねますのでご承知置き願います。

宛　先

（一財）気象業務支援センター　「講習会」 担当　宛

E-mail：methiroba@jmbsc.or.jp

１２．その他

今般の新型コロナウィルスにより、今回の募集に関し中止させて頂く場合もあります。その際には弊センターホームページにてお知らせしますので、予めご理解とご協力をお願い致します。

また、その際には、受講料は返金させて頂きます。